

『国際保健衛生に関する講演会&意見交換会』 開催のご報告

6月20日、世界保健機関（WHO）で感染症対策の責任者としてご活躍中の**進藤奈邦子氏**を迎え、『**WHOでの私の仕事と体験!**』と題した講演会をに開催しました。

SARS、インフルエンザ、エボラ出血熱、中東呼吸器症候群(MERS)など、様々な感染症の流行の際のWHOの対応や、最前線での活動状況をご自身の経験を交えながらお話いただきました。また、今回の講演会は、国際保健医療に関心のある学生の皆さんを主な対象としたものでしたので、国際機関で働く際の心構え、難しさ、キャリア形成などご自身の体験を通した率直なお話をいただきました。

講演会の詳細は、機関誌『目で見えるWHO』の次号に掲載予定です。

- ・開催日時；2016年6月20日、16：00～17:50
- ・場 所；マイドームおおさか 8階6号会議室
- ・講 師；WHO健康安全局流行感染症部 調整官 進藤奈邦子氏
- ・講師略歴；大阪府大阪市生まれ／東京慈恵会医科大学卒業、同大附属病院脳外科、英国セントトーマス病院、オックスフォード大ラディクリフ病院にて臨床研修／1997年 国立感染症研究所感染症情報センター勤務／1999年 同センター主任研究官に就任／2002年 厚生労働省よりWHOに派遣、2012年1月 インフルエンザ及び呼吸器系疾患のチームリーダー、2013年1月 新興・再興感染症の臨床管理および研究アジェンダ、ウイルス感染症に対する新戦略イニシアチブ BRaVe を率いる。緊急事態には WHO 戦略的健康危機管理センターのスタッフとして行動し、世界的な健康危機となる重症急性呼吸器 系疾患やトリインフルエンザ、エボラ出血熱のアウトブレイクを担当。チームと共に、世界各地で、極めて伝染性・危険性の高い病原体の感染制御や患者治療に関わる。

会場風景

